静岡新聞

平成３０年(2018年)８月２１日（火曜日）

駅南口再開発、市民に説明

三島市 包括協定締結見据え

三島市は19日夜、三島駅南口東街区の再開発事業に関する市民説明会を市民文化会館で開いた。地権者や最優秀事業提案者と近く包括協定を締結することを踏まえて実施した。

市が再開発推進に理解を求めた説明会＝三島市民文化会館

事業は広域健康医療拠点のコンセプトの下、当該地1・3㌶にマンションや商業棟、駐車場棟を建設する。総事業費220億円。市幹部は市の負担分を61億円と試算。現計画では年間2億円の税収増が見込め、費用は30年で回収できるとした。包括協定案の項目「協定解除」に関しては「違約金が生じることはない」などとした。

マンションを建てる現計画には川勝平太知事が反対している。この点については、県から出向している小坂寿男副市長が「個人的に必要な事業と考える」とした上で、「県庁全体にも理解を求める」と強調した。

豊岡武士市長も「手をこまねいてはまちは衰退する。民間活力を借りた再開発は大変意義がある」と改めて決意を示した。（三島支局・河村英之）

定員超す来場 賛否の声が交錯

19日の市民説明会では、参加市民から事業を巡る賛否の声が激しく交錯する場面が見られた。定員350人を超える来場があり、場外で傍聴する人もいた。

事業は長年塩漬け状態だった土地開発に道筋が見え、豊岡武士市長が最重要課題に位置付けて推進中。これに対し、一部市民は財政負担の重さや市の推進姿勢に対し、反発の色を強めている。

説明会は質疑応答の時間が1時間超設けられ、賛同者からたびたび拍手が起きた。一方で反対派は事業の詳細がこれまで示されてこず、説明会の開催決定も突然だったなどとして、「大規模事業なのに市民軽視では」などと問いただした。

豊岡市長が7月、反対派に「中止をと言うなら、私を殺してからにしてください」と発言した真意を問う質問もあり、市長は「決意を見せたかった」と従来の考えを述べた。